

2014年度事業・活動計画

熱帯林行動ネットワーク(JATAN) 事務局

I. 活動予定(発展・継続)

- 1) 2014年度「村落林」プロジェクト
過去三年間、リアウ州での「村落林」申請プロジェクトを行ってきた知見をもとに、引き続きカンパール半島並びにカンパール・キリ郡での活動を発展的に継続する。第二、第三の認証事例の獲得に注力すると同時に、助成金が得られれば、林業省に対して申請・認証プロセスのシンプリフィケーション化の提案を現地カウンターパートとともに行っていきたい。
- 2) タスマニア 2014年度活動予定
スティックス溪谷など、2013年5月に世界遺産に含まれた森林を再び伐採予定地に戻そうとする豪連邦政府の動きに対して、現地カウンターパートと協働でキャンペーン活動を展開する。また、9月に現地視察を行い、グランドレベルでの実情把握にも努める。
- 3) APP/APRIL キャンペーン(インドネシア産紙製品キャンペーン)
 - ・引き続き、アスクルのキャンペーンを継続し、調達方針の遵守を実施するように求めていく。
 - ・グリーン購入ネットワークの議論をフォローし、適正に「エコ商品ねっつ」が運用されるよう情報提供や協力していく。
- 4) 輸入合板のキャンペーン活動(サラワクとタスマニア)
サラワクから日本に輸入されている合板のサプライチェーンを明らかにし、地元のコミュニティと熱帯林をはじめとする自然環境に大きなインパクトを与え続けている木材生産・流通の問題解決に向けた市場キャンペーンをスタートさせる。
- 5) ボガブライ問題 日系企業による石炭鉱山開発に伴う保護価値の高い重要な森林が伐採されている問題
このコアラの生息地でもある絶滅危惧種指定となっている森林の皆伐を行っている出光興産の石炭鉱山開発に融資をしているJBICに対して、他団体や現地団体とともに、ガイドライン違反であることの申し立てを継続し、さらに拡大していく。
- 6) ニューサウスウェールズ州のパルプ用天然林伐採問題(危惧種コアラの生息地破壊)
現地活動団体や日本の団体と協力して、日本製紙や顧客企業への情報提供を行い、連邦政府レベルでも危惧種となったコアラの生息地の伐採事業が行われている状況の改善に向けた活動を展開する。
- 7) FSC COC 取得支援事業 継続
FSC COC 認証取得を求める小規模事業者に対してコンサル事業を継続して行っていく。
- 8) 会員拡大キャンペーン / ウェブ充実化の取り組み
ウェブ充実化を通じて、主にオンラインでの会員拡大や寄付拡大の方策を検討してみる。

II. 活動予定(新規)

- 9) パーム油の調達方針や融資方針の策定支援活動
 - ・ グリーン購入法に、パーム油利用に関する合法性や持続可能性に関する規定を盛り込む提案を行う。
 - ・ パーム油問題の一般消費者向けの情報拡散のための計画策定
 - ・ パーム油開発に関する環境社会問題に関する情報収集を他団体と協力しつつ継続して行っていく。
 - ・ 特に、泥炭地や土地転換を伴う場合のCO2排出量の計測を試みる。
 - ・ パーム油購入企業に対して、これらの問題の情報提供を行い、調達方針策定を支援する。
 - ・ 主要な金融機関に対しても、パーム油開発に関する情報提供を行い、融資方針策定を支援する。
- 10) 森林認証制度を利用した先住民族の権利尊重の推進
市民外交センターやアイヌ協会と協力して、森林認証制度を利用した形でアイヌ民族の伝統的権利の尊重を推進する活動として、FSC 管理材のリスク評価の検証プログラムに関する情報提供や、FSC 認証林での利用権拡大のための情報提供活動を行う。
- 11) 違法木材対策法の制定支援
インドネシアの紙パルプ産業の違法性や合法性認証制度 SVLK に関する情報提供の面から支援を行う。

以上